

## **事業報告**（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

### **設立の目的及び概況**

#### **【設立の目的】**

ヒロシマ平和創造基金は、人類最初の原爆の惨禍を体験した広島市民の平和への願いと使命感を高め、さまざまな平和活動および国際交流、協力活動などの推進や支援を目的に2012（平成24）年2月1日に一般財団法人として設立されました。同年8月6日に国から公益財団法人の認定を受け、平和及び国際交流活動に取り組んでいます。

#### **【事業の概況】**

ヒロシマ平和創造基金が取り組む事業は「平和活動」と「国際交流活動」の2つのカテゴリーに分かれ、7つの推進・支援事業を行っています。

「平和活動」は4事業。ヒロシマの心を視覚的にアピールするポスターを通じ国内外へ平和を訴える「ヒロシマ・アピールズポスター」、中国新聞社のヒロシマ平和メディアセンターと連携し行う「ヒロシマ情報の多言語発信」、県民の草の根的な活動を助成する「ヒロシマピースグラント」、そして「ひろしまフラワーフェスティバル」です。

もう1つの柱である「国際交流活動」は3つの事業から成ります。「国際交流フェスティバル（ぺあせろべ）」は、国際交流活動に携わる市民団体等と協力し、バザーや芸能、ゲームなどを通して広島在住の外国人と市民の交流を図る事業です。「ヒロシマ・スカラシップ」は音楽・美術・工芸等の芸術を学ぶ若者の奨励を目的とし奨学金を支給します。「国際交流奨励賞」は、国境を越えて地道な平和・交流活動を続ける市民団体や個人を表彰します。

「ヒロシマ情報の多言語発信」を除く6事業は、当基金の公益財団法人認定を機に財団法人広島国際文化財団の取り組みを引き継ぎました。これからも同財団と連携しながら、平和につながる活動を積極的に推進、支援していきたいと考えています。

#### **【実施事業】**

### **1. 第47回ひろしまフラワーフェスティバル関連事業（4～5月）**

広島市の平和大通りなどで5月3～5日の3日間開催され約160万人の人出で賑わう「ひろしまフラワーフェスティバル」(FF)。コロナ禍明け2年目で通常開催となった2024年は3日間で歴代1位の約180万人の人出で賑わった。当基金は花の塔およびフラワーキャンドルの設営、花のモニュメントの2事業を実施した。

### **2. ヒロシマ情報の多言語発信（通年）**

中国新聞ヒロシマ平和メディアセンターのウェブサイトを通じて、2021～2023年度に続き2024年度も閲覧数の多い英語圏の読者向けに、2020年度新聞協会賞受賞の「ヒロシマの空白」に関する記事と画像を英訳して情報発信した。加えてウクライナ情報の発信にも注力した。今後も多言語発信事業を広く市民に知ってもらい、2014年に創設した「平和サポーター寄付金制度」の寄付を受け付け、コンテンツの充実とより多くの情報発信を行う。

### 3. ヒロシマ ピースグラント 2024 (6~7月)

1995年の被爆50年を機に中国新聞社が寄託した基金をもとに広島国際文化財団が被爆体験の継承と平和創造のための活動を支援する目的で創設した助成制度で、2013年度から当基金がこの事業を引き継ぎ、助成対象を公募している。30回目(基金事業としては12回目)の2024年度は、27団体、8個人から申請があり、選考の結果、下記の13団体、1個人に助成金を贈呈した。

#### 【団体】

▽ヒロシマ「」継ぐ展実行委員会(東京都武蔵野市・久保田涼子代表)▽ピースヘルスケア研究会(京都府城陽市・黒岩晴子代表)▽一般社団法人HOPEプロジェクト(広島市・二口とみゑ代表)▽ヒバク2世の語ろう会(広島市・佐々木佐久子代表)▽広島文学資料保全の会(広島市・土屋時子代表)▽GeNui ne(東京都練馬区・徳田悠希代表)▽汲地紗弥・村田菜(広島市)▽被爆体験を継承する会(広島市・甲斐晶子代表)▽一般社団法人かたわら(神奈川県横浜市・高橋悠太代表)▽ヒロシマ・ピース・オーケストラ実行委員会(広島市・岡田倫弥代表)▽NPO法人ベトナム友の会-ヒロシマ(広島市・吉田基昭代表)▽マイ・ハート・コンサート推進委員会(広島市・沖田孝司代表)▽核兵器廃絶をめざすヒロシマの会(HANWA)(広島市・足立修一・森瀧春子共同代表)

#### 【個人】

▽佐藤優さん(東京都八王子市)

### 4. ヒロシマ・アピールズポスター2024 (7~8月)

世界平和を希求する「ヒロシマの心」を視覚で訴えるポスターとして1983年に制作開始。公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)と広島国際文化財団が共同で毎年1作品を制作。1989年の7作目の後休止していたが、2005年に再開し続けている。当基金は2013年度から事業に加わっている。

通算28作目となる当期は、東京都世田谷区のアートデザイナー副田高行氏が担当、タイトルは「遺品が訴えるもの」。デザイナーが頭の中で描くイメージではなくもっとリアリティーのある表現がしたいと写真家の石内都さんが撮影した1枚を最大限生かし訴求力を求めた。例年通り松井一實広島市長に寄贈した。また、2022年のヒロシマピースグラント助成が縁で4月にはアメリカ・インディアナ大学で1カ月間ポスター展が開かれ、11月には広島市中区のゲートパーク内シメントひろしま展示スペースに図録の現物展示とモニターによるポスター全作品の画像を展示、さらに1月15日~2月9日まで広島市現代美術館でポスター展を開催した。2月26日には2025年ポスター制作者決定の記者発表を行った。

### 5. ヒロシマ・スカラシップ 2024 海外留学奨学金・中村音楽奨学金 (10月)

広島県在住者または出身者で、海外や国内でさまざまな芸術の分野にチャレンジする若い芸術家たちに奨学金を支給する制度。助成対象は公募している。「海外留学奨学金」(音楽を除く芸術全般)と「中村音楽奨学金」(音楽分野に限定)の2部門があり、1人につき年間36万円の奨学金を最大2年間支給する。

**海外留学奨学金**=分野は特に定めない。

2024年度は4人の応募があり、平石幸一ラファエルさん(18)=アメリカ・ボール州立大学留学、デザイン、ビジュアルコミュニケーション専攻が選ばれた。

**中村音楽奨学金**＝修学先は国内・海外を問わない。

2024年度は20人の応募があり、中村美友さん(25)＝フランス・パリ・エコールノルマル音楽院アーティストディプロマ過程留学中、ピアノ▽水野恵さん(24)＝ドイツ・ヴェルツブルク音楽大学修士課程留学中、ピアノ▽村上怜さん(24)＝スイス・国立チューリッヒ芸術大学修士課程留学中、サクソフォン▽赤木奏映さん(31)＝東京藝術大学大学院博士後期課程在学中、マンドリンーの4人が選ばれた。

## **6. 国際交流フェスティバル「ぺあせろべ」(2024年10月)**

広島在住の外国人家族や留学生らと市民が集い、食や遊びを通して互いの文化に触れ、国際交流を図る狙いで1984年から開催されている。コロナ禍により2020～2022年は中止、2023年はサッカースタジアム建設のため会場・時期を変更したが2024年度は中央公園広島城護国神社前広場(中区基町)に会場・時期を戻し10月6日(日)に開催した。当日は晴天に恵まれ約1万5000人が来場、10団体のステージ、22団体のブースで賑わった。

## **7. 国際交流奨励賞(2025年1月)**

平和創造の願いを実現するための国境を越えた地道な市民交流活動を奨励しようと1998年に広島国際文化財団が創設した表彰制度。ヒロシマ平和創造基金が公益財団法人に認定されたのを機に事業を引き継いだ。

2024年度は3団体の応募があり、次の3団体を選んだ。

▽安佐公民館カタール会(広島市・久保田清信代表)＝安佐町とカタール国の相互理解と交流活動で友好関係を継続し地域社会に貢献(30年)▽AOGIRI(アオギリ)(兵庫県西宮市・貞岩しずく代表)＝胎内被爆者の想いを世界へ～次世代による活動という継承～(4年)▽一般社団法人ええじゃん(廿日市市・栗林克行代表)＝「ハウツー・ニッポンぐらし」在留外国人へ多言語情報提供(20年)

3月6日に表彰式を行い、岡島理事長から表彰状と奨励金を贈呈した。

以上